町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル（笑顔のままで）です。

Stay Smile ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって ～新たな力～

町新規就農支援事業

◆姫野由紀さん（高森）

富士見町高森にてばらの鉢苗生産をはじめて４年目を迎えております。ばらは病害虫が多く、鉢苗ならではの管理の難しさを日々感じておりますが、鉢苗は流通量も少なく特に長尺といわれる長い苗はお客様にも大変喜ばれ、手ごたえを感じております。

当方ではオールドローズをはじめ、各時代を彩った、伝統的な品種を多数保有しています。新花が続々発表される中、私たちの守る古いばらたちにどれほどの価値があるのか、悩んだこともありましたが、今はこれらの貴重な品種は先人やこの地球の大地から託されたもののように思え、その文化と伝統を今後も守ってゆきたいと思っています。

お客様は個人がほとんどです。そのため単に苗をお届けするだけでなく、植栽や栽培の相談にのるなど、業務は多岐にわたっております。一番多忙な5、6月は本当に深夜まで作業に追われ辛く思うこともありますが、このように魅力ある植物にかかわっていられることに喜びは尽きません。さらに良い苗、よい情報をご提供できますよう今後も向上し続けたいと思います。

今後は人材育成をはじめとする組織づくりも大きな課題です。創意工夫と情熱を忘れず、今このときも歩み続けてまいります。

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

「不公平」と「公平」

東北の震災の時に聞いた話です。ある避難所にケーキがたくさん届いたそうです。避難生活が長く続く中、被災者の皆さんに、甘いものを食べて少しでもホッとしてもらえたら、という思いからでしょうか。さて、そのケーキですが、その避難所に避難している方全員分なく、避難所の係の方は困り、全員に行き渡らないのは不公平になるからと、結局そのケーキは配らずに終わった、というような内容でした。

実際のところは、ケーキのようにこってりしたものは食べられないという方や好きじゃないから他に欲しい人がいたら自分の分はあげてもいいという方もたくさんいて、少し工夫したら欲しい人食べたい人全員に配ることができた、ということです。

私たちは、機械的に全員に同じ条件で、というのが「公平」と考えがちです。でも、少し深く考えると、機械的な公平が逆に負担になったり不公平を招いたりすることもあります。小学校放課後のあそびばでは、いつも子ども達とおやつを作り、「おやつだよ～」と声をかけ配っています。この時間になったらおやつ、と決めているわけではないので、とにかく声をかけます。人気の高いおやつの時は「おかわり」の列ができます。そんな時はまず、全員食べたかな？まだの子いないかな？遠くの子はおやつって聞こえたかな？と声をかけ、わからない、と帰ってきたら、じゃあ聞いてあげて、とお願いします。食べていない理由に気持ちを寄せて欲しいからです。

食べたくないんだとわかれば「おかわり」組は堂々とおかわりができます。人数分のこっていない時もスタッフが処分せず、子どもたちが工夫して分け合って食べ切るよう、大人がときどきヒントを出しながら、導きます。大勢の人間が過ごす場所での「公平」というのは、機械的に効率よく進めることだけではない、外からみると「不公平」に見えたとしても、それぞれの事情や思いに即して決められ、みんな納得ができたなら「公平」なんだということを体験してもらいたくて、試行錯誤しています。

Stay Smile 4000年の眠りから目覚めた女神 ～梨木原の遺跡～

井戸尻考古館　☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

坂上遺跡・向原遺跡・唐渡宮遺跡・居平遺跡（昭和49～52年）

▲目覚めた女神（坂上遺跡）

JR信濃境駅の西、烏帽子区から平岡区にかけての通称「梨木原」に大規模な構造改善事業の波が押し寄せたのは、昭和49年の春先のことでした。限られた時間とブルドーザーに追われながら、地元の方々の手によって坂上・向原・唐渡宮・居平といった遺跡が相次いで発掘されます。数多くの住居址が調査され、縄文時代のムラが長い眠りから目覚めたのです。住居のほかにも環状列石や敷石の地上絵、祭壇のような場などが相次いでみつかり、非常に重要な地域であることがわかりました。

目覚めた、という表現がふさわしいのは土偶でしょうか。坂上遺跡の土偶は頭、胴体、腰から下の三つに割られていましたが、つなぎ合わされると高さ23㎝にもなる、大ぶりの逸品でした。

実はこの発掘に先立つこと６年、昭和43年にも大発見がありました。唐渡宮遺跡の一隅、道路の拡幅工事の現場から一点の大きな土器が発見され、名取増昭さん、植松克美さんにより考古館に持ち込まれたのです。

こびりついていた土を洗い落としていた武藤雄六さんの眼に、黒い顔料で描かれた絵が飛び込んできました。**“縄文絵画”**の発見です。出産の状景が描かれたものと考えられ、具象的な絵画としては日本最古となる、貴重な資料です。

▲人体絵画土器（唐渡宮遺跡）
右は絵画部を拡大したもの

参考：唐渡宮　1988　長野県富士見町教育委員会

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ

富士見町読書活動推進委員会 事務局　☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）

【保育園の活動】
＊毎日の読み聞かせ
＊自由にのんびり楽しめる絵本コーナー
＊家庭への絵本の貸し出し　など

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

～今回は「落合保育園」の活動のご紹介をします～

落合保育園では、毎朝絵本の読み聞かせを行っています。子どもたちは、真剣な表情で見たり、笑ったり、喜んだりと絵本の世界を一人一人がとても楽しみながら聞いています。また、各クラスには絵本コーナーがあり、友達と一緒に絵本や図鑑を広げて楽しんでいます。そして、毎週金曜日には、絵本の貸し出しをしています。好きな絵本を一冊選んで借りていきます。いろいろな絵本に出会い、親子でほんわかと温かい時間を過ごしてほしいと思っています。

図書館の方による出前おはなし会では、民俗資料館の方が伝統的な高機（たかはた）を持ってきてくださいました。「これ何？」と目の前にある高機に興味津々の子ども達。昔話「つるのおんがえし」のお話を聞いた後、子ども達もおつうさんになって機織りを体験させてもらいました。初めて触れた子どもたちは、緊張しながら真剣な表情で織っていました。みんなで織って布になったところを見て「きれい！」「ボコボコしてるよ」と大喜び。昔話の世界にタイムスリップして楽しめました。

昔話に出てきた道具は知らない物ばかり。実際に見て触れ、お話の世界をより身近に感じられる貴重な体験ができました。

幼児期にたくさんの本に出会い、絵本を通して考えたり想像したりする楽しさを感じてほしいと思います。

※次回は境保育園の読書活動について紹介します。

▲クラスでの読み聞かせ

▲移動図書館　出前おはなし会